

大学教員を対象としたオープン教材の現状と課題

－ YouTube の活用に着目して－

竹中 喜一

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

Current Status and Issues of Open Educational Resources for Faculty Development

Yoshikazu TAKENAKA

Office for Educational Planning and Research, Institute for Education and Student Support, Ehime University

1. 背景と目的

2020 年以降、オンラインにより行われる FD (Faculty Development) が一気に増加した。その中には、参加者がインターネット環境のもとで好きなときに受講できるオンデマンド型の教材を活用するものもある。

オンデマンド型教材の活用は、大学組織にも教員個人にも利点がある。たとえば、学内で FD を専従で担う教員が配置されていない大学では、FD を外部講師に依存せざるをえない場合も多い。しかし、オンデマンド教材を活用することにより、外部講師との日程調整や謝金の支出は不要となる。教員個人にとっては、個別最適化の学習が可能になる。オンデマンド教材であれば、教員は授業や研究などの時間を調整することなく学習できる。さらに、教員が自身の希望する内容を選択することも可能である。

FD のオンデマンド教材として有名なものには、全国私立大学 FD 連携フォーラムが提供する「実践的 FD プログラム」がある。これは教授・学修支援能力の習得をねらいとした 30 以上のオンデマンド教材を受講できるものであり、全国の大学教職員に活用されている。しかし、受講できるのは全国私立大学 FD 連携フォーラム加盟校または一定の利用料を支払った非加盟校の教職員に限られ、教職員個人としての申込はできない。

誰でも無償で利用可能な FD のオンデマンド教材もある。こういった「何らかの専門性をもった個人や組織が、教育のためにインターネットに公開する教材」は、オープン教材とよばれる(重田, 2016)。FD のオープン教材には、

たとえば東北大学が公開する PDP Online がある。PDP Online は、半年で 6 千回以上閲覧されており、能力開発に活用されている(今野ら, 2017)。しかし、大学の専任教員だけで全国で約 19 万人いることを鑑みると、こういったオープン教材があることを知らない教員は多いと考えられる。

そこで本研究で着目したいのが、オープン教材のプラットフォームとして世間一般にもっとも知られている YouTube である。YouTube 上にアップロードされた動画は無償で誰でも利用可能であり、その中には FD に活用なものも相当数あることが想定される。本研究では、YouTube 上にある FD 関連動画のアップロード状況を調査し、その結果から YouTube 上にある FD 動画の特徴と、FD への YouTube 活用に関する課題を明らかにすることを目的とする。

2. 方法

2.1 検索対象とする動画

大学改革支援・学位授与機構(2021)によれば、FD は「大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」と定義される。

この定義を踏まえ、大学における授業の内容及び方法の改善を象徴するキーワードとして表 1 の 6 つを選択した。これらの 6 つの用語は、玉川大学出版部から刊行されている「シリーズ大学の教授法」の書籍 6 冊のタイトルにそれぞれ対応している。「シリーズ大学の教授法」は「大学にお

ける教授法の知識と技能を体系的に提示することで、よりよい授業をしたいと考える大学教員を支援」することを目的として編まれた書籍である(中井編, 2015)。表1に示されるようなFDに関する書籍のタイトルは、FDのキーワードを表すと考えられる。したがって、このキーワードで検索すればFDに関する動画がヒットすると考えた。

表1 検索対象としたキーワード

・ 授業設計	・ 講義法	・ アクティブラーニング
・ 学習評価	・ 研究指導	・ 授業改善

2.2 検索の手順

動画の検索を行ったのは、2021年7月29日から8月3日の5日間であった。検索にあたってまず、YouTube上の検索窓に上述した6つのキーワードを1つずつ入力し、検索した。次に、検索結果として表示された動画について、タイトル、アップロード時期、時間(動画の長さ)、再生回数順、作成者(アップロード元のチャンネル)を記録した。

そして、それぞれの動画についてFDの動画として活用可能なものであるかどうか判別を行った。判別を行った結果、活用可能と判断したものを抽出し、それらを詳細な分析対象とした。活用可能かどうか判断する基準については後述する。

3. 検索の結果

3.1 キーワードごとの動画数

2.2の手順に基づき検索した結果を表2に示す。合計で1,052本の動画が検索結果として表示された。最も多かったのは「アクティブラーニング」で494本、以下「講義法」「授業改善」「学習評価」「授業設計」「研究指導」の順で多くの動画がヒットした。

表2 各キーワードで検索された動画数

	AL	講義法	授業改善	学習評価	授業設計	研究指導	計
本数	494	290	96	87	48	37	1,052

※図中の「AL」は「アクティブラーニング」を指す(表3以降も同様)。

3.2 検索結果の課題

3.1で示した動画のタイトルや内容を確認した結果、FDの動画として活用することができない、あるいは難しいものが多くみられた。以下では、その理由について述べる。

3.2.1 キーワードと関連しない動画

3.1で示した動画のうち、明らかにタイトルが教育と関連しないものがみられた。たとえば「授業設計」のキーワードで検索された動画の中には、「二級建築士対策授業(設

計製図試験)」のように、建築などの設計にかかわる授業の動画が検索結果として表示されることがあった。この他にも、設計という用語が建築用語と認識されているケースもみられた。

「講義法」については、公務員試験や行政書士試験などの法律関連や英文法など「〇〇法」に関する「講義」が多くヒットしていた。このほか「大分県農林水産研究指導センター」「アクティブラーニング学院」(下線部は筆者が付記)のように、動画の作成者とキーワードがリンクしてヒットしていると思われるケースも散見された。

3.2.2 商材の広報用に作成された動画

特に企業などが作成者であった動画の中には、商材の広報を目的としているものがあつた。たとえば、アクティブラーニングに関する動画のDVD教材やソフトウェアの概要紹介のようなものが該当する。

ソフトウェアの概要紹介では、実際に導入した大学における授業の様子や教員の声などが掲載されている場合もある。しかし、商材そのものの紹介に重点が置かれて動画が構成されているため、FDの動画として活用するのは難しい。

3.2.3 授業の様子をそのまま収録した動画

動画の中には、教員個人が作成した学生向けのオンデマンド講義用のものや、教育機関または教員個人が作成した対面授業の様子をそのまま録画したものがあつた。

これらの動画を閲覧することにより、FDの代表的な方法の一つである授業参観と同等の学習効果を得られる可能性はある。閲覧者によっては、授業内容や方法の示唆を得られるかもしれないためである。しかし、授業内容や方法に関する解説が動画中に含まれていないため、閲覧者が授業のねらいや背景を理解することは難しい。また、授業参観においては授業担当教員との意見交換の機会が設けられることもあるが、動画の閲覧だけではそれもかなわない。以上のことから、こういった動画のFDとしての効果は限定的であると考えられる。

3.2.4 高等教育の文脈で作成されていない動画

検索でヒットした動画の中には、「道德科の授業改善に向けて」「新学習指導要領に対応した学習評価」といったタイトルに示されるように、初中等教育の文脈で作成されたものが多くあつた。

また、「授業における『振り返り』」「授業をチェックしてみませんか」といったタイトルの動画であっても、動画で取り上げられている事例が初中等教育のものであったり、アクティブラーニングが「主体的・対話的で深い学び」と学習指導要領の用語で説明されていたりするものもあつた。

これらの動画の内容は高等教育にも共通して参考にできる部分もある。しかし、初中等教育との授業に関する制度などが高等教育と異なるため、そのまま初中等教育の授業方法を高等教育に適用するのは難しい。たとえば、今回検索結果としてヒットした動画の中に「新学習指導要領に対応した学習評価」といったタイトルのものがあった。学習指導要領の改訂に伴い、評価の観点や基準をどのように考えていけばよいかを示す動画である。初中等教育にとっては参考になる動画であるが、高等教育には学習指導要領はない。したがって、学習指導要領を拠り所として学習評価を考える動画をFDに用いることは適当とはいえない。

以上のことから、このカテゴリに含まれる動画をそのままFDに活用するには大きな限界があると考えた。

4. FD 動画の抽出と分析

3.2に挙げた課題について、いずれか1つ以上該当するものは、FD動画として取り扱うのは難しい。そこで、いずれの課題にも該当しなかった動画をFDに活用可能な動画とし、これらの動画について詳細な分析を行うこととした。表3に示すように、FDに活用可能と考えられる動画は全部で87本となった。

表3 FDに活用可能な動画の数

	AL	授業設計	授業改善	研究指導	講義法	学習評価	計
本数	56	12	6	5	4	4	87

特に、「アクティブラーニング」関連の動画が87本中56本と全体の6割以上を占めていた。その理由として、アクティブラーニングが高等教育において特にニーズの高いものであったことが考えられる。高等教育業界では、アクティブラーニングは2000年代後半から普及し、政策文書でも繰り返し取り上げられていた。それに伴いアクティブラーニング関連の研究会やセミナーも用語の同時期から多く開かれており、FD動画についても比較的多くアップロードされたのではないかと考えられる。

4.1 FD 動画のアップロード時期

表3で示したFD動画のアップロード時期を示したのが表4である。「アクティブラーニング」の動画はアップロードから5年以上経過しているものが最も多かった。先述のように、「アクティブラーニング」は2000年代後半から普及したキーワードであり、従前からニーズが高かったことから、FD動画についても比較的早期から作成され始めていたのではないかと考えられる。

一方、「アクティブラーニング」以外の「授業設計」「授業改善」「研究指導」「講義法」「学習評価」の動画31本のうち、30本が3年以内にアップロードされたものであ

た。これらのうち14本は「シリーズ 大学の授業を極める」という特定のチャンネル（作成者）によりアップロードされたものであった。そのため「アクティブラーニング」以外のFD動画が3年以内に増加したことを、一般的な傾向として結論づけるのは適切といえない。ただし「シリーズ大学の授業を極める」以外のチャンネルがアップロードした16本の動画のうち6本は、オンライン授業の「授業設計」や「授業改善」に関するものであった。したがって、コロナ禍に伴う2020年以降のオンライン授業の普及が、「アクティブラーニング」以外のFD動画の増加に影響を与えた可能性はあると考えられる。

表4 FD動画のアップロードしてからの経過年数

	AL	授業設計	授業改善	研究指導	講義法	学習評価	計
-1年	6	2	1	3		4	16
1-2年	9	9	2	1			21
2-3年	7	1	2	1	4		15
3-4年	2						2
4-5年	9		1				10
5年-	23						23
計	56	12	6	5	4	4	87

※表中で単位がない数字はすべて、FD動画の本数を示す。

4.2 FD 動画の時間の長さ

表3で示した87本のFD動画の長さを表5のように示した。動画の長さについては、20分以内のものが全体の約8割を占めた。20分以上の動画は「アクティブラーニング」「授業改善」の2つのキーワードでみられた。

20分以内の動画が多かった理由として考えられるのは、YouTubeでは標準設定でアップロードできる動画が15分以内という仕様があることが挙げられる。15分以上の動画をアップロードするためには「Googleアカウントの確認手続き」が必要となる。この手続きはそれほど難しいものではないが、15分以上の動画が減少する一要因にはなっていると考えられる。

もう1つは、オンライン授業の作成方針に倣っているという理由である。大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部(2020)は「動画教材を作成する場合は、できるだけ短時間で複数に分けるのが良いでしょう」と指摘している。具体的に森田(2020)は、教員がオンデマンド配信でできる工夫について動画を「5分～10分程度」に分割することを挙げている。また、染岡(2019)は自身の授業で用いたオンデマンド教材について「このコンテンツの平均視聴時間は8分46秒であり、学生は25分のコンテンツを平均して3回に分けて視聴していた」という実態を報告している。こういったことから、YouTube上にアップロードする動画の長さについても、20分以内の短時間が妥当という考えが浸透していると想定される。

表5 FD 動画の時間の長さ

	AL	授業 設計	授業 改善	研究 指導	講義 法	学習 評価	計
1-5分	19	3		3			25
5-10分	7	5	3	1	1	2	19
10-20分	14	4	1	1	3	2	25
20-30分	7		1				8
30分-	9		1				10
計	56	12	6	5	4	4	87

※表中で単位がない数字はすべて、FD 動画の本数を示す。

4.3 FD 動画の再生回数

表3で示したFD 動画の再生回数については、表6の通りであった。動画の再生回数は最大で9千回強、最小で19回であった(調査時点での再生回数)。1千回以上閲覧されていた動画は87本中30本であり、1千回未満の動画が全体の6割以上を占めていたことがわかる。

1.で挙げた東北大学の「PDP Online」が半年で6千回以上視聴されていることを鑑みると、FD 動画の閲覧は一般的に多いとはいえない。

表6 FD 動画の再生回数

	AL	授業 設計	授業 改善	研究 指導	講義 法	学習 評価	計
5千-1万回	1						1
1千-5千回	18	6	1		4		29
5百-1千回	19	1				1	21
1百-5百回	14	3	4	3		3	27
-1百回	4	2	1	2			9
計	56	12	6	5	4	4	87

※表中で単位がない数字はすべて、FD 動画の本数を示す。

4.4 FD 動画の作成者

表3で示したFD 動画の作成者は、①高等教育機関(大学や専門学校など)、②学校以外の公的機関(文部科学省や教育委員会など)、③企業・個人(予備校やICT関連企業など)などの3つに大別することができた。それぞれのカテゴリごとの動画の本数は表7のとおりであった。

なお、表2で上げた1,052本の動画の中には、上記3つのカテゴリ以外にも、初中等教育機関によりアップロードされたものも25本あった。しかし、主に3.2.4で述べた課題が含まれる動画であったことから、FD 動画としての活用は難しいと判断した。

表7 FD 動画の作成者

	AL	授業 設計	授業 改善	研究 指導	講義 法	学習 評価	計
高等教育機関	31	3	3				37
学校以外の 公的機関	6	7	1		4	4	22
企業・個人等	19	2	2	5			28
計	56	12	6	5	4	4	87

4.5 FD 動画の類型化

FD 動画として活用可能と判断した87本の動画について、内容を確認した結果、構成の特長によって大きく3つに類型化することができた。以下では、複数本の動画がヒットしたチャンネルを例に挙げ、各類型の特徴について説明する。

4.5.1 授業の様子の録画に解説が加えられた動画

87本の動画のうち、「兵庫教育大学公式HyokyoChannel」(3本)、「京都教育大学公式YouTube kyokyochannel」(2本)、「shukutokuuniversity」(淑徳大学; 2本)、「千葉商科大学 - Chiba University of Commerce」(2本)がアップロードしていた動画は、いずれも実際の授業の様子を録画し、その内容に解説を加えたものであった。

上記のうち、兵庫教育大学がアップロードしていた動画3本は、教員養成の大学院の授業を紹介したものであった。タイトルにはいずれも「アクティブ・ラーニングによる知の創造」という名称が含まれているが、授業の流れと構成について解説が加えられており、アクティブラーニング型授業を設計する上での参考になると考えられる。

淑徳大学と千葉商科大学がアップロードしていた動画は、学外での実習を伴ういわゆるPBL(Project Based Learning)型授業の紹介であった。これらについても、授業の流れや学生の活動や成果物について解説があった。

いずれの動画も、授業を録画したまま配信するのではなく、何らかの編集が加えられ授業実践のポイントがわかるように工夫されていることにより、FD 動画として活用しやすくなっている。

4.5.2 研修のアーカイブとしての動画

研修のアーカイブとしての動画のうち、複数本の動画がヒットしたチャンネル(作成者)は「国立情報学研究所」(3本)、「サイバー大学 Cyber University Inc.」(2本)、「Kyoto-U OCW」(京都大学; 2本)、「Kyushuuniv」(九州大学; 2本)、「NPO法人 プロジェクトマネジメントインキュベーション協会」(2本)、「library fair」(2本)、「ks-edu」(2本)であった。

まず、国立情報学研究所が作成した動画について説明する。国立情報学研究所では、2020年3月から「大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム」を毎月1~2回程度、オンラインにより開催している。このシンポジウムの目的は「大学等における遠隔授業や教育DX等に関する情報を共有すること」¹⁾にあり、遠隔授業の授業実践などの実践事例も多く発表されている。今回ヒットした動画は、それらの発表がYouTube上にアーカイブされたものであった。具体的には「オンライン大学の挑戦 - 東京通信大学の授業設計 & システム -」「遠隔授業におけるアクティブラーニング応用事例」「オン

ライン TBL (Team-based Learning) を用いたアクティブラーニングの試み：ハイブリッド型授業への展望」の3本であった。

次に、サイバー大学が作成した動画について説明する。今回検索結果としてヒットしたサイバー大学の動画は「【CCFC#1】オンライン授業活用のためのワークショップ (2020.05.20 開催) サイバー大学」「【CCFC#2 前半】オンライン授業活用のためのワークショップ (2020.06.24 開催) サイバー大学」というタイトルであった。

また、「Kyoto-U OCW」がアップロードしていた動画2本は、いずれも京都大学が主催で行われた講演会や研究会を収録したものであった。京都大学ではOCW (オープンコースウェア) として「授業や公開講座、国際シンポジウムなどの動画・講義資料を世界に向けて積極的に公開」²⁾しており、今回検索結果としてヒットした動画もOCWとして公開されているアクティブラーニングや授業改善に関するものであった。なお、OCWとは銘打たれてはいないが、九州大学が開設していた「Kyushuuniv」のチャンネルにある2本の動画も同様の趣旨でアップロードされたものであった。

このほか、「NPO 法人 プロジェクトマネジメントインキュベーション協会」のチャンネルでは「日本PBLシンポジウム」におけるアクティブラーニングの実践事例の講演動画2本が、「library fair」のチャンネルでは「図書館総合展」におけるアクティブラーニングや学修環境に関する講演動画2本がアップロードされていた。なお、「ks-edu」のチャンネルにおいては作成者が明らかにはされていないが、ヒットした2本はいずれもアクティブラーニングおよび授業設計をテーマとした金沢大学で開催されたFD研修の動画であった。

4.5.3 教育的意図をもって作成された動画

FD動画の中には、もともとFDのオープン教材を意図して作成されていたり、学生や研究者に対して教育的意図をもって作成されていたりする動画もみられた。動画が複数本ヒットしたチャンネルは「シリーズ 大学の授業を極める」(17本)、「早稲田大学体験 web サイト」(4本)と「東大TV」(3本)、「ノギタ教授」(3本)であった。

「シリーズ 大学の授業を極める」は関西地区FD連絡協議会が作成した動画のチャンネルである。関西地区FD連絡協議会はすでに解散しているが、大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部がチャンネルの運営を引き継いでいる。「授業設計」「講義法」「アクティブラーニング」「学習評価」の4テーマで動画が作成されており「大学教育学の専門家がわかりやすく授業の質を高めるポイントを解説」することを意図して作成された動画である³⁾。大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部のWebページには、動画の内容を解説した自学自習用のハンドアウトも用意されて

いた。

「早稲田大学体験 web サイト」は、本来は「早稲田大学を目指す高校生・受験生のための情報サイト」であり、学部・研究科やそこで行われる授業の紹介動画が中心にアップロードされている。その中から今回の検索で「アクティブラーニング Tips 集」という名称の動画が4本ヒットした。4本の動画は「リフレクションの手法編」「グループディスカッション編」「Peer Instruction 編」「わせポチ編」で構成されている⁴⁾。いずれも2～3分の短時間でアクティブラーニングを促進するポイントがまとめられた動画であった。

次に「東大TV」について説明する。東大TVとは「東京大学で開催された多彩な公開講座や講演会」をアーカイブした大学公式のWebサイトである⁵⁾。東大TVのWebサイトのリンクからアーカイブされた動画へアクセスできる。動画のリンク先はYouTubeであるため、YouTubeからも直接アクセスすることが可能であり、今回の検索にもヒットした。ヒットした動画は、「ジグソーメソッド」「ポスターセッション」「ピアレビュー」といった、アクティブラーニングを促進する方法について3分程度でまとめられた解説動画であった。

最後に「ノギタ教授」のチャンネルについて説明する。これはクイーンズランド大学の野北和宏教授が、同大学で学んだり働いたりする学生や研究者への情報提供や、企業や大学との共同研究を推進するために、個人で開設したチャンネルである。今回は「研究指導」のキーワードで3本の動画がヒットした。いずれも「研究指導は『釣った魚を与えずに、釣り方を教える』」といったように、研究指導における学生との接し方をことわざや慣用語を用いて説明するものであった。

4.6 FD 動画の課題と今後の展望

以上の内容から、FDへのYouTube活用に関する課題について考察する。

本研究では、6つのキーワードで動画を検索した結果、合計1,052本の動画がヒットした。しかし、3.2で述べた課題を含む動画が多かったことから、FD動画として活用可能と考えられるものは87本、ヒットした動画のうち約8.3%であった。このことから、現状YouTubeの検索機能でFD動画として適切なものに行き着くことは困難であるといえる。

ただし、YouTube上にアップロードされているFD動画の絶対数が少ないと断言することはできない。たとえば、4.5で取り上げた「国立情報学研究所」のチャンネルには、今回検索結果としてヒットした動画以外にも「LMSを使ってオンライン授業をやってみよう!」「『大学教育の質保証』に向けた遠隔授業・卒論指導・キャリア支援」といったタイトルの動画など、FDに活用できそうなものは多く含ま

れていた。

また、「サイバー大学」のチャンネルにおいては、ヒットした動画のタイトルが「【CCFC#2 前半】オンライン授業活用のためのワークショップ (2020. 06. 24 開催) サイバー大学」であり、「【CCFC#2 後半】」の動画もあると推測されたが、その動画はヒットしていなかった。そこでサイバー大学のチャンネルを確認したところ、「【CCFC#2 後半】」の動画に加えて、2020 年度に実施した「オンライン授業活用のためのワークショップ」8 回分の動画がアップロードされていることがわかった。

同じタイトルのワークショップであっても、動画によってヒットするかどうか異なっている理由には、以下のようなものであると考えられる。YouTube には動画のアップロード時に動画の概要を説明する文章を入力することができる。今回はその説明に「授業設計」という文言が含まれていた動画がヒットし、そうでない動画はヒットしなかったと考えられる。

以上のことから、今回ヒットしなかった動画の中にも、FD 動画として活用可能なものはまだ多くあると考える。たとえば、本研究では単一のキーワードでのみ検索したが「授業設計 大学」のように、複数のキーワードを組み合わせることで、より多くの FD 動画がヒットする可能性はあるだろう。

もう 1 点、FD 動画のリンク集についても提言したい。本研究で抽出された FD 動画や、先述の国立情報学研究所やサイバー大学の例のように、検索結果にヒットしなかった FD 動画を含むリンク集を作成するというものである。リンク集そのものの認知度や精度の向上という新たな課題は生じる。しかしこの課題は、SPOD (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) などの FD に関連するコンソーシアムの加盟校が連携して作成・運営することにより、解決に向けて前進することは可能と考える。

5. まとめ

本研究の目的は、YouTube 上にある FD 動画の現状と課題を明らかにすることであった。まず、FD 動画の現状を調査するために「授業設計」「講義法」「アクティブラーニング」「学習評価」「研究指導」「授業改善」の 6 つのキーワードで検索した。その結果、1,052 本の動画がヒットしたが、そのうち FD 動画として活用可能なものは 87 本にとどまった。FD に関するキーワードで検索しても、FD に活用可能な動画がヒットしにくい状況であることが明らかになった。

その原因として、「キーワードと関連しない動画」「商材の広報用に作成された動画」「授業の様子をそのまま収録した動画」「高等教育の文脈で作成されていない動画」の 4 つがあることが明らかになった。ただし、1 つの FD 動

画をもとに、その作成者の Web サイトなどをたどっていくことにより、より多くの FD 動画にアクセスできる可能性があることも示唆された。

FD 動画として YouTube 上にアップロードされたものには、次のような特徴があった。まず表 4 に示したように、「アクティブラーニング」に関する FD 動画は 5 年以上前から作成され、他のキーワードに比べて比較的早期からアップロードされ始めていた。作成された動画の長さは、表 5 で示したように全体の約 8 割が 20 分以内であった。

また、FD 動画は高等教育機関、学校以外の公的機関、企業・個人などにより作成されていた。それぞれが作成した動画は「授業の様子を録画に解説が加えられた動画」「研修のアーカイブとしての動画」「教育的意図をもって作成された動画」に類型化できることも明らかになった。ただし、FD 動画の約 6 割が再生回数 1 千回未満であり、FD 動画の多くは広く閲覧されている状況にないのが現状といえる。今後、YouTube 上にアップロードされた FD 動画を普及する手立てとして、SPOD などの FD 関連のコンソーシアムによる FD 動画のリンク集作成が考えられることを最後に提言した。

本研究で検索対象としたキーワードは 6 つと限られたものであり、YouTube 上の FD 動画の全貌を明らかにしたとはいえない。今後もキーワードを増やして検索し、今回明らかにした FD 動画の類型化の検証を行うなど、同様のテーマで研究を続け、FD のオープン教材の普及促進を図っていきたい。

参考文献：

- 大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部 (2020) 授業をオンライン化するための 10 のポイント詳細版
 今野文子, 朱嘉琪, 三石大 (2017) 大学教職員向けセミナー動画配信サイト PDPonline の閲覧ログに基づく利用状況の確認, 教育システム情報学会誌, 34 (2) : 184-189
 重田勝介 (2016) オープンエデュケーション—開かれた教育が変える高等教育と生涯学習, 情報管理, 59 (1) : 3-10
 染岡慎一 (2019) オンデマンド教材の開発, およびインターネット配信授業の実施, 安田女子大学紀要, 47 : 79-88
 大学改革支援・学位授与機構 (2021) 高等教育に関する質保証関係用語集 第 5 版
 中井俊樹編 (2018) シリーズ大学の教授法 3 アクティブラーニング
 森田裕介 (2020) ポストコロナを見据えた大学授業のデジタル変革, 大学教育と情報, 174 : 5-9

注：

- 1) 国立情報学研究所 Web ページ (<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/>) より引用。
- 2) 京都大学 OCW Web ページ (<https://ocw.kyoto-u.ac.jp/>) より

り引用

- 3) 大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部 Web ページ (https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/support_e_learning/2021/04/gakushatei.html) より引用。
- 4) 「わせポチ」とは、早稲田大学が開発した WEB 版クリッカーのことである。(<https://www.youtube.com/watch?v=heBzkffT2Y> の動画内容より引用)
- 5) 東大 TV Web ページ (https://today.tv/about_today_tv) より引用。